

官業労働者……諸氏に告ぐ

来た！官業労働者の團結すべき時が来た、

見よ、米國ラッシュンに於ける、大車洋會議の議案に依れば、海軍船臺
万の労働者の生活は、根底から、破壊せられた、當局が、將して、吾等のう
なつく程に失業手當を給支するであらうか。

陸軍五万の従軍員の生活は如何であらう、之れ又、無敵の失業者を出す
事は、當局の、言明と、作業の現狀で推察が出来る、

八幡、室蘭の製鉄所も、一大打撃を蒙り、經營難の事實は明白である、
此の時際にして、吾等二十万の官業労働者は、如何に進むべきか、否、如

何にして生活の保証を得ようか、

然し問題は、例へば資本主義の會議にせよ、平和の理想の本に、會議するの
であるから、吾等は考慮すべき點の多々ある事を忘れてならない、けれども
労働者の味方は、労働者以外にない、故に吾等は、此の際、全官業労働者の
一大團結を計り、全國官業工場に従軍員及家族を通過せる、六十有餘万の兄
弟の爲めに……最善の努力を……最善の効果を納めたい？……

呼喚、吾等は、失業の恐ろしさを夢みる時に、什事が手につかない、生活
の不安を感した時、泣きた心は更にな……諸君の鞭を……そのは剛結
だ、決して、自分だけ使つてもうなうなう、けしな心は出さな、自分も、
人共に生きよう、人の難儀は自分の難儀と心得、全國二十万の、官業勞
働者が、死ぬなら一所に死のう、類むなら一所聚まう、それが八萬の失業者

即ち家族共二十四万の兄弟等を救ふ、一番の近道だ、
起て……！……義人よ、世の犠牲者よ……！……それが、人間の果
高の義務だ？……！……故に天下の官業労働者諸氏に告ぐ

日本労働聯盟

官業労働總同盟内

大正十一年十一月

横濱貨は横須賀で、吳は吳で一組合を組織せよ、大坂も、名古屋も、
八幡も、舞鶴も、在世博も、總賃に、組織的に總立しようではないか

總發行
芝田修次
印刷所 内閣社王子印刷所
發行所 日本労働聯盟本部
東京市小石川三丁目

新年の辭にかへて

愛する官業労働者兄弟等よ、大正十一年の新しい春は
養本家にも、労働者にも神様は平等に祝福して呉れたので
あります。

然し、愛する兄弟諸君よ、このお出度からへき新春の早々に天下に叫
號せなければならぬ事は、去年以來制度と一變された、軍備制限に依る官
業労働者及び造船界五十万の失業者と家族の飢饉は自前に通つた、そしてこ
の恐るべき事實が天下に發せざるべきは時は三月中に決定されるであらう。

吾等の毛はまたつ、けれども吾々は、唯だ恐れてゐる必要はない、日本の憲法
には人民の生存権を認めてゐる、認めてゐる以上國家は人民の餓死する存続
を見逃すわけには行かない、況や兵器、造船廠上は國事多端の際に大いなる
努力を働つた、
故に官業労働者を一片の辭命で失業さすと云ふ事は罪惡である、故に吾等
は當然の要求として吾等の生存権の獲得運動を起す事は正義であると前に
權利がある、

愛する兄弟諸君よ、吾等は歴して使死する必要はない積極的に倒れて後已
まう、労働者の生存権運動は、労働運動だ、國家が憲法で生存権を認めてゐ
る以上は、労働運動を認めぬわけにも行かない、失業手當二年分も、最低
賃金二四五十錢も、諸君の團結如何の問題だ、この運動に参加しない者は勞
働者にして労働者にあらず彼れは労働者の仇敵だ吾等は新年早々に横須賀に
一月八日又九州八幡に一月十三日官業職工の大會を開き、二月の九日より三
日間東京に官業労働總同盟第三回定期大會を開催する、そして政府を動かし
、議會を通じ政策を動かして、効果を得よう、諸君、新年もお出度いがより以上諸君
の生活は肝要に故に新年早々愛する兄弟の組織ある團結を望み來るべき大運
働に猛烈と決起せられん事を、五十万の失業者の爲めに切に望みます

横安 田達 晃 和一

大正十一年十一月 日本労働聯盟
を代表して

(内閣社印行)